

1 交流センター図書コーナーの充実と移動図書館運行（復活）の調査・検討

(1) 合併協議会において旧磐田市の移動図書館が廃止された。その理由を伺う。

(2) 公民館（交流センター）図書コーナーの状況

合併後新市となった平成17年4月、旧磐田市で運行していた移動図書館「わかば号」が廃止された。一般利用者へのフォローとして定期的に公民館図書の本の入替と配本回数を増やすことにより対応する、とした。以下伺う。

① 合併後の公民館図書の本の入替回数と配本数及び公民館図書の充実度は。

② 自身の調査の結果、平成29年度における15カ所の交流センター等図書の利用は、貸出しの少ない交流センター等で年間10冊、貸出しの多い交流センター等では年間400冊であった。15カ所の交流センター等の貸出数は合計1,992冊、センター等全体の貸出し数は月平均約11冊である。月平均貸出し数約11冊をどうとらえ、考えるか。

③ 交流センター担当者から、貸出し数が少ない原因は団体貸出し用の本は古く新刊が少ないためと聞く。古い本を貸出すその理由は。

(3) 交流センター図書コーナーの改革と充実

① 新刊・配本回数など見直し、市民が利用しやすいよう図書コーナーを見直し充実を図るべきである。その考えと具体策を伺う。

(4) 移動図書館による市民への公平なサービス提供について伺う。

① 市民の誰でもが利用しやすい図書館の環境整備が必要。図書館を利用しにくい地域の住民や障がい者・高齢者へのサービスは移動図書館の運行によって解決する。その運行方法は、図書館の代替として地域にステーションを設置し移動図書館が巡回することで、誰もが公平に図書サービスを受けることが可能となる。移動図書館の運行を見据え調査・検討する考えは。

2 認知症施策推進と（仮称）「磐田市認知症の人にやさしいまちづくり」条例の制定

(1) 認知症施策の推進について

① 認知症施策の推進に関し以下伺う。

ア サポーター養成講座受講者の現況

イ 認知症ケアパス啓発の現況

ウ いきいき百歳体操・高齢者サロンの普及啓発の現況

エ 予防に効果的な取り組み調査の進捗状況

オ 若年性認知症の人のニーズ把握の進捗状況

カ 介護者同士が集う場や居場所づくりの普及の進捗状況

キ 認知症高齢者等事前登録制度オレンジシールの普及の進捗状況

② 認知症施策の推進における課題・問題点を伺う。

(2) （仮称）「磐田市認知症の人にやさしいまちづくり」条例制定について

- ① 高齢化が急速に進む中、今後一層の認知症高齢者の増加が見込まれ、誰もが認知症になりえる認識を持つことが求められ、認知症になっても住み慣れた地域で暮らし続けられるよう認知症の人にやさしいまちづくりを市民が共有しなければならない。（仮称）「磐田市認知症の人にやさしいまちづくり」条例の制定について見解を伺う。